

表彰

〔2022年度学会賞受賞者〕

- 金田 隆 君（岡山大学学術研究院自然科学学域・教授）
 研究業績 レーザーやペーパーデバイスを用いた分離・検出に関する研究
- 黒田 直敬 君（長崎大学薬学部・教授）
 研究業績 生体成分及び医薬品を対象とした精密分離・高感度検出法の開発
- 久本 秀明 君（大阪公立大学大学院工学研究科・教授）
 研究業績 高機能センシング材料・多機能集積マイクロ分析デバイスの基盤技術開発研究

〔2022年度学会功労賞受賞者〕

- 故 大森 保 君（琉球大学理学部・名誉教授）
 研究業績 固相-液相間における微量元素の分配挙動の解明と亜熱帯環境化学への応用及び学会への貢献
- 藏 源一郎 君（福岡教育大学・名誉教授）
 研究業績 環状、直鎖状縮合リン酸塩オリゴマーの分析化学研究とそれらの溶液内反応に関する研究と学会への貢献

〔2022年度技術功績賞受賞者〕

- 喜多 純一 君（㈱島津製作所・マネージャー）
 研究業績 におい識別装置の開発および実用化への導入
- 中川 公一 君（弘前大学大学院保健学研究科・客員研究員）
 研究業績 X-バンド ESR イメージング法によるバイオメディカル試料の測定技術開発

〔2022年度奨励賞受賞者〕

- 有馬 彰秀 君（名古屋大学大学院工学研究科・特任講師）
 研究業績 ナノ・マイクロポアデバイスを用いた単一生体微粒子分析法の開発
- 井上 賢一 君（東北大学大学院理学研究科・助教）
 研究業績 和周波発生分光法を用いた新規界面分析手法の開発と界面ダイナミクスの解明
- 砂山 博文 君（神戸大学大学院工学研究科・特命准教授）
 研究業績 高感度センシングを指向した分子インプリントナノ空間の創製
- 吉田 将己 君（北海道大学大学院理学研究院・助教）
 研究業績 金属錯体の励起状態および準安定状態の精密設計に基づく多様な外部刺激の可視化

〔2022年度先端分析技術賞受賞者〕

JAIMA 機器開発賞

- 渋谷 享司 君（㈱堀場製作所・チームリーダー）
 研究業績 量子カスケードレーザーを用いたガス分析技術：赤外レーザー吸収変調法の実用化
- 八幡 悟史 君（東亜ディーケーケー㈱・課長補佐）， 野田 健一 君（東亜ディーケーケー㈱・主幹研究員），
 下村 亜依 君（東亜ディーケーケー㈱・係長）， 小田 侑 君（東亜ディーケーケー㈱・係長），
 荒川 智 君（東亜ディーケーケー㈱・室長）， 八谷 宏光 君（東亜ディーケーケー㈱・本部長付），
 黒田 章夫 君（広島大学・教授）
 研究業績 生物発光式エンドトキシン検出装置の開発

〔2022年度女性 Analyst 賞受賞者〕

- 森内 隆代 君（大阪工業大学工学部・教授）
 研究業績 認識化合物創製とイオンセンサへの応用および PVC 感応膜の新規物性評価法の確立
- リムリーワ 君（岐阜大学工学部・教授）
 研究業績 キャピラリー液体クロマトグラフィーの高性能化に関する研究

〔2022年度有功賞受賞者〕（敬称略）

濱田 淳	日産化学(株)	安平 高憲	(株)コベルコ科研
北井 宏和	(独)造幣局	太田 明宏	(株)島津製作所
植草 里美	(株)三井化学分析センター	池戸 正和	(株)島津製作所
森川 正己	フロンティア・ラボ(株)	田中美奈子	(株)島津製作所
角田三保子	(株)三井化学分析センター	富永 晃生	(株)島津製作所
松永 聡史	旭化成(株)	福本 真治	(株)島津製作所
新濱はづき	旭化成(株)	重田 京子	(株)三井化学分析センター
内田 丈晴	(一財)化学物質評価研究機構	廣瀬枝実子	(株)東レリサーチセンター
藤原 幸彦	JFE スチール(株)	原 和佳子	(株)東レリサーチセンター
西山 里美	住友金属鉱山(株)	松井 精司	(株)住化分析センター
上田 聡弘	住鋳テクノロジー(株)	梅原 一宏	(株)住化分析センター
石飛 正	JFE テクノリサーチ(株)	竹内 裕	(株)住化分析センター
伊藤 智也	JFE テクノリサーチ(株)	的野 敦	(株)住化分析センター
高橋 誠	JFE テクノリサーチ(株)	野口 和良	味の素(株)
三島 圭司	JFE テクノリサーチ(株)	井澤 隆	デンカ(株)
河本美佐江	昭和電工(株)	江口 智子	デンカ(株)
首藤 博幸	サンアロマー(株)	土屋 恒治	(株)日立ハイテクサイエンス
竹内 和幸	昭和電工(株)	阿部 孝広	三菱マテリアル(株)
山下 任	昭和電工(株)	岩本 則政	(株)トクヤマ
召田こゆき	昭和電工(株)	木村 隆利	DOWA テクノリサーチ(株)
金本 誠	(株)日立ハイテクフィールドディング	三浦 真	DOWA テクノリサーチ(株)
萩本 尚友	(株)日立ハイテクフィールドディング	川村 美晴	(株)大同分析リサーチ
高屋敷吉秀	関東化学(株)	森 透	MHI ソリューションテクノロジーズ(株)
国府田浩之	(株)UBE 科学分析センター	小柳 敦美	三井金属鉱業(株)
大石 誠	(株)堀場テクノサービス		

第 83 回分析化学討論会 主題討論題目およびオーガナイザー募集

第 83 回分析化学討論会（富山大学五福キャンパス、富山市）を 2023 年 5 月 20 日（土）、21 日（日）に開催の予定です。本討論会では、これまでの討論会と同様に分析化学に関する学術研究・技術開発・普及促進等様々な場面で活躍の皆様から、主題題目とそのオーガナイザーを広く募集したいと思います。奮ってご応募いただき、討論会での充実した議論につなげることができればと考えています。特に産業界の皆様からの積極的なご提案も歓迎しております。応募を希望される方は、下記要領に従い、実行委員会までお申し込みください。なお、採否および運営につきましては実行委員会にご一任いただければ幸いです。詳細および申込フォームにつきましては下記 HP をご参照ください。

第 83 回分析化学討論会実行委員長
遠田浩司
記

申込方法 学会 HP 内の下記サイトより申込フォームをダウンロードの上、以下の実行委員会メールアドレス宛て電子ファイルをお送りください。

[<https://conference.jsac.jp/83touron/>]

申込締切 9 月 30 日（金）

申込先 第 83 回分析化学討論会実行委員会
[E-mail : 83touron@jsac.jp]

第 376 回液体クロマトグラフィー研究懇談会

主催（公社）日本分析化学会・液体クロマトグラフィー研究懇談会

食品の機能性、安全衛生を担保するには LC、LC/MS が重要な役割を果たしています。従来は分析が難しかった機能性物質、有害要因物質を探索し、簡便・迅速に定量するための技術の開発が進んでいます。本例会では、食品中の化学物質の分析法について講演していただきます。

期日 2022 年 10 月 20 日（木）13.00～17.10

会場 Zoom オンライン会場

講演主題 食品分析における LC、LC/MS の基礎から最新技術まで

講演

講演主題概説（オーガナイザー）（13.00～13.05）

（ハウス食品グループ本社(株)）神山和夫

1. 食品に含まれる農薬・医薬品の前処理および分析法の検討（13.05～13.45）

（日本ウォーターズ(株)）島崎裕紀
（LC 分析士三段、LC/MS 分析士二段）

2. 食品中の PFASs 分析に適したサンプル前処理と LC/MS システムのご紹介（13.45～14.25）

（アジレント・テクノロジー(株)）城代 航
（LC 分析士初段）

3. LC-MS/MS を用いた対 EU 輸出二枚貝の麻痺性貝毒分析（14.25～15.05）

（(一財)日本食品検査）橘田 規
（LC 分析士二段、LC/MS 分析士四段）

休憩（15.05～15.20）

4. ジフェニルカラムを用いた紅茶機能性成分の LC-MS/MS 分析（15.20～16.00）

（(公社)日本分析化学会関東支部参与）望月直樹
（LC 分析士二段、LC/MS 分析士二段）

5. 相対モル感度法を用いたウコン中の機能性成分の分析

（16.00～16.40）

（ハウス食品グループ本社(株)）神山和夫
（LC 分析士二段、LC/MS 分析士二段）

6. 総括「食品分析における LC、LC/MS の基礎から最新技術まで」（16.40～17.10）

（東京理科大学）中村 洋
（LC 分析士五段、LC/MS 分析士五段）

参加費 LC 研究懇談会個人会員：1,000 円、協賛学会（日本分析化学会、日本薬学会、日本化学会）及び後援学会（日本農芸化学会）会員：3,000 円、その他：4,000 円、学生：1,000 円。

参加申込締切日後の受付はできませんので、ご了承ください。
情報交換会 講演終了後、講師を交えて情報交換会を開催します（会費 1,000 円）。

締切日後のご参加はできませんので、参加希望者は必ず事前にお申し込みください。

参加申込及び参加費等納入締切日 2022 年 10 月 13 日（木）
（入金締切時刻：15 時まで）

申込方法

- 参加希望者は、下記申込先にアクセスし、氏名、勤務先（電話番号）、LC 会員・協賛学会会員・その他別及び情報交換会参加の有無を明記の上、お申し込みください。
- お申込みが完了した場合には、登録されたアドレス宛に「第 376 回液体クロマトグラフィー研究懇談会申込み受付（自動返信）」のメールが届きます。メールが届かない場合は、世話人までお問い合わせください。
- 申込み受付のメールを受領後、必ず期限内に参加費の納入を行ってください。期限内に参加費納入が確認できない場合、参加申込みを無効とし参加 URL を発行しませんので、十分ご注意ください。なお、一旦納入された参加費は、返金いたしません。
- 参加費の納入が確認できた方には、2022 年 10 月 14 日以降に①例会サイト入場 URL と②「視聴者用操作マニュアル」をお送りします。また、情報交換会参加費納入者には、③情報交換会サイト入場 URL をお知らせいたします。なお、請求書と領収書の発行はいたしておりません。領収書は、振込時に金融機関が発行する振込票等をもって替えさせていただきます。

申込先 <https://forms.gle/LsNcd8AbmQVaBsoH6>

銀行送金先 りそな銀行五反田支店（普通）1754341 口座名：シャ）ニホンブンセキカガクカイ〔公益社団法人日本分析化学会・液体クロマトグラフィー研究懇談会〕

問合せ先（公社）日本分析化学会・液体クロマトグラフィー研究懇談会 世話人 ハウス食品グループ本社(株) 神山和夫
[E-mail : k-koyama@housefoods.co.jp]

液体クロマトグラフィー研究懇談会（例会）参加費送金時のご注意

例会参加費、情報交換会参加費を送金される場合、下記を禁止しておりますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

- 複数例会の参加費の同時振込（→例会ごとに振り込んでください）
- 複数参加者の参加費の同時振込（→参加者ごとに振り込んでください）
- 年会費や他の費用との合算振込（→費目ごとに振り込んでください）

HPLC & LC/MS 講習会 2022

主催 (公社)日本分析化学会・LC研究懇談会
 協賛 (公社)日本分析化学会, (公社)日本薬学会, (公社)日本化学会

後援 (公社)日本農芸化学会

HPLCとLC/MSの基礎について講習します。分離、検出の基礎、移動相調製、前処理などに関する講義を行ないます。初級者の方はHPLCとLC/MS操作に必要な基礎知識を全般的に得るための機会としてご利用ください。中級者の方は弱点の補強または知識の整理にご利用ください。講師陣は装置、カラム、試薬の各メーカーの「LC分析士初段」または「LC/MS分析士初段」以上を有するベテラン技術者等が担当し、わかりやすく講義します。日々の作業に必要な実践的な知識が身に付き、受講した翌日から業務、研究に役立つ内容です。最新の情報や動向、トピックスについてもご紹介いたします。

会期 2022年11月18日(金)

開催形態 オンライン (Zoom ウェビナー)

プログラム

- 9.00~9.15 オーガナイザーズガイダンス
 (東京理科大学) 中村 洋
- 9.15~10.00 第1講 HPLCとLC/MSの基礎と理論
 (東京理科大学) 中村 洋
- 10.05~10.50 第2講 HPLCとLC/MSにおける分離
 (アジレント・テクノロジー株) 熊谷浩樹
- 10.55~11.40 第3講 HPLCとLC/MSにおける検出
 (株)島津総合サービス リサーチセンター) 三上博久
- 11.45~12.30 第4講 HPLCとLC/MSにおける前処理
 (病態解析研究所) 岡橋美貴子
- 12.30~13.15 昼休み
- 13.20~14.05 第5講 HPLCとLC/MS分析に用いる試薬・溶媒
 (関東化学株) 坂本和則
- 15.35~15.50 休憩
- 15.55~16.40 第6講 LC/MSの基礎
 (株)東レリサーチセンター) 竹澤正明
- 16.45~17.30 第7講 HPLCとLC/MSにおけるトラブルシューティング
 (第一三共株) 合田竜弥
- 17.35~18.20 総合討論

受講料(税込み) LC研究懇談会会員(協賛学会会員を含む) 10,000円, 会員外15,000円。参加費の払い戻しはいたしませんので、あらかじめご了承ください。

参加者特典 総合討論では、仕事上の問題点につき可能な限り質問にお答えいたします。質問事項をあらかじめ下記連絡先にメールでお寄せください。

申込方法 下記のLC研究懇談会ホームページ記載の申込URLに必要事項を記入して送信してください。

申込URL <https://forms.gle/Rt25amsMFwNvpAno7>

申込締切 11月8日(火)(入金締切時刻:15時まで)

銀行送金先 りそな銀行五反田支店(普通)0802349 口座名: シャ)ニホンブンセキカガクカイ [公益社団法人 日本分析化学会・液体クロマトグラフィー研究懇談会]

なお、請求書と領収書の発行はいたしておりません。領収書は、振込時に金融機関が発行する振込票等をもって替えさせていただきます。

連絡先 LC研究懇談会・講習会実行委員会

[E-mail: nakamura@jsac.or.jp]

「分析中部・ゆめ21」
若手交流会・第22回高山フォーラム

主催 (公社)日本分析化学会中部支部
 協賛 日本分析化学会若手交流活動助成金

本フォーラムは、日本分析化学会中部支部の若手による企画「分析中部・ゆめ21」の一環として毎年開催されています。通常の学会発表とは異なる、若手ならではのユニークで形式にとられない学術交流の場の創作を目指しています。

期日 2022年11月12日(土)

会場 オンライン開催

内容 依頼講演, ポスター講演。

プログラム

午前の部 (10.30~12.00)

開会式

依頼講演

「分析化学の中での化学発光の特徴と利用法(仮題)」

岸川直哉 先生(長崎大医歯薬)

「生体膜を利用するバイオセンシング」

東海林敦 先生(東京薬大)

午後の部 (13.00~16.00)

ポスター講演

閉会式

定員 90名

ポスター講演募集締切・講演要旨集原稿締切・参加申込締切
 10月28日(金)

参加申込方法 HP (<http://www.jsac.or.jp/~chubu/>)の表題セミナーのページにある【参加申込フォーム】にてWebから申し込みください。ポスター講演を申し込み方は、その際に講演要旨ファイル(pdf)を同フォームにて提出ください。

参加費 無料

問合先 〒422-8526 静岡県静岡市駿河区谷田52-1 静岡県立大学薬学部 生体機能分子分析学分野 轟木堅一郎

[電話:054-264-5656, E-mail: takayamaforum2022@gmail.com]

2022 (11th) Asia-Pacific Symposium on
Ion Analysis (国際会議)

主催 日本分析化学会イオンクロマトグラフィー研究懇談会
 APIA is a biennial symposium of the Asia-Pacific countries and APIA 2022 is organized after the series event held in September of 2019 at Daejeon, KOREA. Unfortunately, the 2021 APIA, which was supposed to be held in 2021, has been cancelled to prevent the spread of the COVID-19.

APIA 2022 intends to offer a forum for intensive exchange of new knowledge and developments in the field of ionic species analysis for researchers in Asia-Pacific countries. The symposium will cover latest developments of ion analysis in ion chromatography, capillary electrophoresis and related separation methods as well as their applications. Keynote speaker, oral and student speaker presentations will be included in the program, but the poster presentation is not included. Authors are invited to contribute original abstracts on all aspect ionic species analysis and related techniques.

期日 2022年12月8日(木)

形式 オンライン (Zoom)

募集講演 Keynote Lecture, 一般講演, 学生講演, ランチオンセミナー (ポスター講演は実施しない)

講演・参加申込 IC懇談会ホームページからフォームス

(Forms) にアクセスしての申込 (詳細は、ホームページでご確認ください)。

申込 URL <https://forms.office.com/r/4F7qxnhwUs>

講演募集及び要旨締切 10月31日 (月)

参加費 無料

参加申込締切 11月30日 (水)

問合先 イオンクロマトグラフィー研究懇談会事務局 高知大学理工学部化学生命理工学科 森 勝伸・森みかる

〔電話：088-844-8306, E-mail：(事務局) jm-mikaru@kochi-u.ac.jp, (森 勝伸) mori@kochi-u.ac.jp〕

第38回イオンクロマトグラフィー討論会

主催 日本分析化学会イオンクロマトグラフィー研究懇談会
イオンクロマトグラフィーの登場から50年を迎えようとしている。その間、イオンクロマトグラフィーは、環境・食品・医療をはじめとする多様な場面でのイオン分析に活用されてきた。一方で、イオン成分の分析では、より高い感度を目指した質量分析計などの検出法、固相抽出などの前処理法が広く用いられるようになってきている。さらに、超純水や高純度試薬の品質評価、環境中成分など、これまでの分析法の限界を超えた高感度分析のニーズも高まっている。本討論会では、「超微量分析への挑戦」を主題とし、目的とするイオン成分を高感度に検出するための手法について議論を深める。主題に関連する講演をまとめたセッションを設け、集中的に取り扱う予定である。

期日 2022年12月9日 (金)

会場 東京23区内 (対面) で実施予定。講演会場は10月下旬にプログラムと同時に公開)

討論主題 「超微量分析への挑戦」

募集講演 一般講演、技術紹介、学生講演、ランチョンセミナー (ポスター講演は実施しない)

講演・参加申込 IC懇談会ホームページからフォームにアクセスしての申込 (詳細は、ホームページでご確認ください)。

講演募集締切 10月7日 (金)

講演要旨締切 10月28日 (金)

参加費 IC懇談会会員：3,000円、新会員 (年会費込)：5,000円、会員外：6,000円、学生：2,000円

情報交換会 12月9日。講演終了後、講演会場近くで17時30分頃より (一般5,000円、学生2,000円)

参加申込締切 10月28日 (金)

問合先 第38回イオンクロマトグラフィー討論会実行委員会事務局 熊本大学大学院先端科学研究部基礎科学部門化学

コース 大平慎一

〔電話：096-342-3384, E-mail：ohira@kumamoto-u.ac.jp〕

——以下の各件は本会が共催・協賛・後援等をする行事です——

◎詳細は主催者のホームページ等でご確認ください。

次世代センサ総合シンポジウム2022 “これからの社会課題に挑むセンサ技術”

主催 (一社)次世代センサ協議会

期日 2022年9月14日 (水)～16日 (金)

会場 オンライン

ホームページ <http://www.jisedaisensor.org/>

連絡先 (一社)次世代センサ協議会 事務局

〔電話：03-6910-0889, FAX：03-6910-0899, E-mail：office@jisedaisensor.org〕

第73回コロイドおよび界面化学討論会

主催 (公社)日本化学会コロイドおよび界面化学部会

期日 2022年9月20日 (火)～22日 (木)

会場 広島大学東広島キャンパス (オンラインを加えたハイブリッド)

ホームページ

https://colloid.csj.jp/202201/73rd_meeting_sympo/

連絡先 第73回コロイドおよび界面化学討論会事務局

〔E-mail：secre.dm@colloid.csj.jp〕

「つける」と「はがす」の新技術— 分子接合と表面制御」コース

主催 (地独) 神奈川県立産業技術総合研究所

期日 2022年9月28日 (水)・29日 (木)

会場 かながわサイエンスパーク (KSP) 内会議室

ホームページ

<https://www.kistec.jp/learn/researcher/molecular-bonding/>

連絡先 〒213-0012 神奈川県川崎市高津区坂戸 3-2-1 (地独) 神奈川県立産業技術総合研究所 人材育成部教育研修グループ [電話：044-819-2033, FAX：044-819-2097, E-mail：manabi@kistec.jp]

日本金属学会オンライン教育講座 「状態図・相平衡・拡散の基礎」

主催 (公社) 日本金属学会

期日 2022年10月4日 (火)・5日 (水)

会場 オンライン (Zoom) による講義

ホームページ https://jim.or.jp/EVENTS/event_index.html

連絡先 〒980-8544 宮城県仙台市青葉区一番町 1-14-32 (公社) 日本金属学会 セミナー・シンポジウム参加係

〔電話：022-223-3685, FAX：022-223-6312, E-mail：meeting@jim.or.jp〕

第8回材料WEEK

主催 (公社)日本材料学会
 期日 2022年10月11日(火)~14日(金)
 会場 京都テルサ
 ホームページ <http://www.jsms.jp>
 連絡先 〒606-8301 京都府京都市左京区吉田泉殿町 1-101
 (公社)日本材料学会 [電話: 075-761-5321, FAX: 075-761-5325, E-mail: jimuj@jsms.jp]

VACUUM2022 真空展

主催 (一社)日本真空工業会, (公社)日本表面真空学会, (株)日刊工業新聞社
 期日 2022年10月12日(水)~28日(金)(オンライン), 10月19日(水)~21日(金)(東京ビッグサイト)
 ホームページ <https://biz.nikkan.co.jp/eve/vacuum/>
 連絡先 〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町 14-1 日刊工業新聞社イベント事業部「VACUUM 真空展」事務局
 [電話: 03-5644-7221, FAX: 03-5641-8321, E-mail: autumnfair@nikkan.tech]

日本金属学会オンライン教育講座
「材料強度の基礎」

主催 (公社)日本金属学会
 期日 2022年10月20日(木)・21日(金)
 会場 オンライン (Zoom) による講義
 ホームページ https://jim.or.jp/EVENTS/event_index.html
 連絡先 〒980-8544 宮城県仙台市青葉区一番町 1-14-32
 (公社)日本金属学会 セミナー・シンポジウム参加係
 [電話: 022-223-3685, FAX: 022-223-6312, E-mail: meeting@jim.or.jp]

色材協会創立 95 周年記念会議
95th JSCM Anniversary Conference
“Sustainable Technology in Colour Materials”

主催 (一社)色材協会
 期日 2022年10月25日(火)・26日(水)
 会場 アルカディア市ヶ谷 (私学会館)
 ホームページ <http://www.shikizai.org/>
 連絡先 〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿 3-12-8 東京塗料会館 201 号室 (一社)色材協会事務局
 [電話: 03-3443-2811, FAX: 03-3443-3699, E-mail: info@jscm.or.jp]

第70回プラスチックフィルム研究会講座

主題 = 次世代モビリティ・通信用フィルム

主催 (公社)高分子学会 プラスチックフィルム研究会
 期日 2022年10月25日(火)
 会場 東京工業大学大岡山キャンパス西9号館コラボレーションルーム

ホームページ <https://member.spsj.or.jp/event/>
 連絡先 〒104-0042 東京都中央区入船 3-10-9 新富町ビル 6F (公社)高分子学会 プラスチックフィルム研究会係
 [電話: 03-5540-3771, FAX: 03-5540-3737]

第51回薄膜・表面物理基礎講座 (2022)
「Beyond 5G と薄膜・表面物理の接点」

主催 (公社)応用物理学会薄膜・表面物理分科会
 期日 2022年10月31日(月)
 会場 慶應義塾大学日吉キャンパス来往舎大会議室 (ハイブリッド開催)
 ホームページ <https://annex.jsap.or.jp/tfspd/kiso2022/>
 連絡先 (公社)応用物理学会 分科会担当 白石陽子
 [電話: 03-3828-7723, E-mail: divisions@jsap.or.jp]

第61回NMR討論会

主催 (一社)日本核磁気共鳴学会
 期日 2022年11月8日(火)~10日(木)
 会場 高知県立県民文化ホール
 ホームページ <https://www.nmrj.jp/NMR2022/>
 連絡先 〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 3-11-15 6階 (株)クバプロ内 第61回NMR討論会事務局
 [電話: 03-3238-1689, FAX: 03-3238-1837, E-mail: nmr61@kuba.jp]

日本希土類学会第40回講演会

主催 日本希土類学会
 期日 2022年11月9日(水)
 会場 崎陽軒本店マンダリン
 ホームページ <http://www.kidorui.org/lecture.html>
 連絡先 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 2-1 大阪大学大学院工学研究科 応用化学専攻内 日本希土類学会事務局
 [電話: 06-6879-7352, FAX: 06-6879-7354, E-mail: kidorui@chem.eng.osaka-u.ac.jp]

日本膜学会膜シンポジウム 2022
“膜を学ぶ・膜に学ぶ”

主催 (一社)日本膜学会
 期日 2022年11月9日(水)・10日(木)
 会場 神戸大学百年記念館
 ホームページ <http://www.maku-jp.org/symposium/>
 連絡先 〒113-0033 東京都文京区本郷 5-26-5-702 日本膜学会事務局 [E-mail: membrane@mua.biglobe.ne.jp]

第35回日本吸着学会研究発表会

主催 日本吸着学会
 期日 2022年11月10日(木)・11日(金)
 会場 JA 長野県ビル・アクティールホール

ホームページ http://www.j-ad.org/annual_meeting/
 連絡先 〒380-8553 長野県長野市若里 4-17-1 信州大学先
 鋭領域融合研究群先鋭材料研究所 田中秀樹
 [電話：026-269-5181, E-mail：annualmeeting@j-ad.org]

第 68 回ポーラログラフィーおよび 電気分析化学討論会

主催 日本ポーラログラフ学会
 期日 2022 年 11 月 10 日 (木)・11 日 (金)
 会場 京都大学桂キャンパス桂ホール
 ホームページ <http://www.polaro.jp/meeting.html>
 連絡先 〒615-8510 京都府京都市西京区京都大学桂 京都
 大学大学院工学研究科 物質エネルギー化学専攻 討論会世
 話人 作花哲夫 [電話：075-383-2489, FAX：075-383-
 2490, E-mail：polaro2022kyoto@gmail.com]

第 41 回溶媒抽出討論会

主催 日本溶媒抽出学会
 期日 2022 年 11 月 24 日 (木)・25 日 (金)
 会場 東京工業大学大岡山キャンパス西 8 号館 (E) 10 階大会
 議室
 ホームページ
<http://www.solventextraction.gr.jp/symposium/00top.html>
 連絡先 〒152-8550 東京都目黒区大岡山 2-12-1 N1-2 東
 京工業大学科学技術創成研究院 福島復興再生研究ユニット
 竹下研究室 第 41 回溶媒抽出討論会実行委員長 竹下健二
 [電話：03-5734-3845, E-mail：takeshita.k.ab@m.titech.ac.jp]

日本腐植物質学会第 38 回講演会および総会

主催 日本腐植物質学会
 期日 2022 年 11 月 25 日 (金)・26 日 (土)
 会場 東邦大学理学部 3 号館・5 号館
 ホームページ
https://www.research.kobe-u.ac.jp/ans-soil/jhss/meetings_info.html
 連絡先 〒274-8510 千葉県船橋市三山 2-2-1 東邦大学理
 学部内 第 38 回講演会実行委員長 千賀有希子
 [E-mail：yukiko.senga@sci.toho-u.ac.jp]

新アミノ酸分析研究会第 12 回学術講演会

主催 新アミノ酸分析研究会
 期日 2022 年 12 月 9 日 (金)
 会場 大田区産業プラザ P10
 ホームページ <http://jsa3.s2.weblife.me/>
 連絡先 新アミノ酸分析研究会 第 12 回学術講演会事務局
 [E-mail：todoroki@u-shizuoka-ken.ac.jp]

第 31 回光化学国際会議 31st International Conference on Photochemistry (ICP2023)

主催 ICP2023 実行委員会
 期日 2023 年 7 月 23 日 (日)～28 日 (金)
 会場 札幌パークホテル
 ホームページ <https://icp2023.jp/>
 連絡先 〒558-8585 大阪市住吉区杉本 3-3-138 大阪公立
 大学理学研究科化学専攻 坪井泰之 [電話：06-6605-2505,
 E-mail：twoboys@omu.ac.jp], 〒001-0021 札幌市北区北
 21 条西 10 丁目 北海道大学電子科学研究所 三澤弘明 [電
 話：011-706-9358, E-mail：misawa@es.hokudai.ac.jp], 事
 務局連絡先：secretariat@icp2023.jp

「分析化学」特集 “マイクロ・ナノ分析化学の新展開”の論文募集

「分析化学」編集委員会

「分析化学」編集委員会は、マイクロ・ナノ化学分析研究懇
 談会と共同で「マイクロ・ナノ分析化学の新展開」と題した特
 集を企画しました。マイクロ・ナノ化学分析は、測定対象の微
 量化・微小化に資するデバイスやシステムはもとより、微小領
 域の観測や定量に関する計測法や分析技術を対象としているこ
 とから、分析化学のみならず分子生物学や細胞生物学、臨床医
 学などの広範な研究分野で活用されています。最近では、精密
 分析だけでなく、簡易分析にも広がりを見せています。また、
 マイクロ・ナノデバイスの新しい作製法、装置・測定法の開
 発、実試料の前処理法、既存分析装置との融合など、さまざま
 な開発が進められています。

このような背景に鑑み、本特集号では、マイクロ・ナノ分析
 化学の新展開に関する論文の投稿をお待ちしています。奮っ
 てご投稿ください。詳細はホームページをご確認ください。

特集論文申込締切：2022 年 9 月 30 日 (金)

特集論文原稿締切：2022 年 10 月 28 日 (金)

初めて書く論文は母語の日本語で！ “第 22 回若手研究者の初論文特集” 募集のお知らせ

「分析化学」編集委員会

「分析化学」編集委員会では、2023 年 (第 72 巻) に第 22 回
 「若手研究者の初論文特集」を企画します。卒研究生、修士・博
 士課程院生並びに若手研究者の方々にとって、ご自分の研究成
 果を日本語で投稿できるよい機会です。なお、2019 年より本
 特集を年間特集とし、都合の良いときに執筆して投稿できるよ
 うにしました。年間を通して論文原稿を受け付け、審査を経て
 掲載になり次第随時掲載いたしますので、奮ってご投稿くだ
 さい。

なお、詳細は「分析化学」誌 HP をご参照ください。

「分析化学」年間特集 “流”の論文募集

「分析化学」編集委員会

「分析化学」では2010年より「年間特集」を企画し2023年は「流」をテーマとすることと致しました。

本特集では「流」をキーワードとして分析化学における基礎・応用を含めて幅広い観点で見渡し、分析化学が担う役割を社会に向けて発信することを目的としています。本特集に関わる論文はすべての論文種目で年間を通じてご投稿いただくことが可能で、審査を通過した論文は単行の特集号を除く「分析化学」第72巻（2023年）合併号の冒頭に掲載する予定です。国内外、産学官を問わず、「流」に関わる分析化学の研究・開発に従事されている多くの皆様方からの投稿をお待ちしておりますので、是非この機会をご活用ください。なお、詳細は「分析化学」誌の9号及びホームページをご参照ください。

特集論文の対象:「流」に関連した分析化学的な基礎・応用に関する論文。例を以下に示します。1) 液体や気体などの流れを利用した分析装置や分析手法の開発・応用、2) 連続的に流れている河川や大気などの分析に関する研究、3) 製造ラインなどの流れの中で利用する分析法の開発・応用、4) 電子の流れを計測する電気分析化学的研究、5) 原子・分子の流れを扱うシミュレーションを活用した分析化学的研究。

特集論文原稿締切: 2022年11月18日(金) (第2期)

「分析化学」編集委員会特集 “ウェルネスに貢献する分析化学”の論文募集

「分析化学」編集委員会

2023年度(第72巻第6号)の「編集委員会特集」のテーマは、『ウェルネスに貢献する分析化学』に決定いたしました。

本特集では、ウェルネスに貢献する分析化学と題し、医療、福祉、スポーツ、食と農、美容、環境、IT等の様々な分野における分析化学を対象とした研究に着目することと致しました。ウェルネスに関連した、新たなサイエンスを切り拓くための基盤技術、およびその応用に関する論文の投稿をお待ちしております。なお、詳細は「分析化学」誌の6号及びホームページをご参照ください。

特集論文申込締切: 2022年10月7日(金)

特集論文原稿締切: 2022年12月2日(金)

ぶんせき誌「技術紹介」の原稿募集

「ぶんせき」編集委員会

分析化学は種々の分野における基盤技術であり、科学や産業の発達・発展だけでなく、安全で豊かな生活の実現に分析機器が大きく貢献してきました。近年の分析機器の高性能化・高度化は目覚ましく、知識や経験がなくても、微量物質の量や特性を測定できるようになりました。この急速な発展は、各企業が持つ高度で多彩な技術やノウハウによって達成されたといっても過言ではありません。一方、高度化された分析機器の性能・機能を十分に発揮させるためには、既存の手法に代わる新規な分析手法が必要であり、高度な分析機器に適合した分析手法や前処理手法の開発が分析者にとって新たな課題となっています。また、分析目的に合致した高純度試薬の開発に加えて、測定環境の整備、試薬や水の取り扱いなどにも十分な配慮が必要です。極微量の試料を分析する際には、測定原理を把握すると

共に、手法や操作に関する知識・技能を身に付ける必要があると考えます。

このような背景に鑑み、『ぶんせき』誌では新たな記事として「技術紹介」を企画いたしました。分析機器の特徴や性能、機器開発に関わる技術、そしてその応用例などを紹介・周知することが分析機器の適正な活用、さらなる普及に繋がると考えており、これらに関する企業技術を論じた記事を掲載することといたしました。また、分析機器や分析手法の利用・応用における注意事項、前処理や操作上のコツなども盛り込んだ紹介記事を歓迎いたします。これらの記事を技術紹介集として、『ぶんせき』誌ホームページ内に蓄積することで、様々な分野における研究者や技術者に有用な情報を発信でき、分析化学の発展に貢献できるものと期待しております。分析機器や分析手法の開発・応用に従事されている多くの皆様方からのご投稿をお待ちしております。

記

1. 記事の題目:「技術紹介」
2. 対象: 以下のような分析機器、分析手法に関する紹介・解説記事
 - 1) 分析機器の特徴や性能および機器開発に関わる技術、
 - 2) 分析手法の特徴および手法開発に関わる技術、
 - 3) 分析機器および分析手法の応用例、
 - 4) 分析に必要な試薬や水および雰囲気などに関する情報・解説、
 - 5) 前処理や試料の取扱い等に関する情報・解説・注意事項、
 - 6) その他、分析機器の性能を十分に引き出すために有用な情報など
3. 新規性: 本記事の内容に関しては、新規性は一切問いません。新規の装置や技術である必要はなく、既存の装置や技術に関わるもので構いません。また、社会的要求が高いテーマや関連技術については、データや知見の追加などにより繰り返し紹介していただいても構いません。
4. お問い合わせ先: 日本分析化学会『ぶんせき』編集委員会 [E-mail: bunseki@jsac.or.jp]

『ぶんせき』再録集 vol. 1 出版のお知らせ

ぶんせき誌の過去記事の有効利用の一環として、記事をまとめて書籍化するという試みを行っています。2021年5月10日に、『ぶんせき』再録集 vol. 1 が出版されました。この巻には、2011年から2020年まで、10年間分の〈ミニファイル〉の記事が詰まっています。たっぷり256ページ、2,750円(税込み)のお値打ち本です。多岐にわたる『知って得する分析化学の豆知識』を堪能できます。本書は下記10章からなり、それぞれに12から14の話題が集められています。

1. 実験器具に用いられる素材の特徴
2. 分析がかかわる資格
3. 顕微鏡と画像データ処理
4. 最新のweb文献検索データベース
5. ポータブル型分析装置
6. 分析化学と材料物性
7. 分析化学者のための多変量解析入門
8. 土壌分析
9. サンプルング
10. 前処理に必要な器具や装置の正しい使用方法

過去のミニファイルをファイリングしておきたいときに、初学者への参考書をお探しのときに、また、非学会員の方に分析化学会のアピールをしたいときに、ぜひご活用ください。本書はアマゾンオンデマンド出版サービスを利用して出版した書籍ですので、書店には並びません。アマゾンサイトからのネット注文のみとなりますので、ご注意ください。ネットで「ぶんせき再録集」と入力して検索しても、すぐに出てきます。詳しくは「ぶんせき」誌ホームページをご確認ください。